

# 癒しの森 消化器内科クリニック 札幌がんフォレスト



所在地：北海道札幌市西区発寒2条5丁目6番5号  
 建築面積：234.59㎡  
 延床面積：690.81㎡  
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、3階建  
 設計：(株)北工房  
 インテリアデザイン：伊藤千織デザイン事務所  
 照明計画：(有)イリス  
 施工：建築／常盤工業(株)  
 電気／(株)タカデン工事  
 完成：平成21年8月

S18

病院のイメージにとらわれず、インテリアと照明にこだわり、木質の素材を多用した手づくり感と温かみで患者さんの心を開放する雰囲気づくりとともに、環境にも配慮して省エネルギー形の光源を採用しています。

消化器系のがんの統合医療を目的に開設された、新しいタイプのクリニック

癒しの森消化器内科クリニック・札幌がんフォレストは、ハイビジョン内視鏡、デジタルレントゲン装置など最新の医療設備・技術による消化器疾患の専門的診断・治療とともに、消化器系のがんの治療を体と心の癒しを通して行う統合医療を目的に開設されました。

1階は画像診断フロア、2階は診察室、内視鏡室、テレビと読書灯を備えるリクライニングベッドを設けた抗がん剤点滴室、受付・待合室など、3階はがん患者のための特別相談室、自律神経免疫療法室、ヨガや気功を行う多目的ホールなどが設けられています。

森の中の木漏れ日や日だまりを意識し、電球色のランプを中心に採用

2階受付・待合室は、天井の木製ルーバーの間から32Wコンパクト形蛍光灯ダウンライト(電球色)の光が降り注ぐ、木漏れ日をイメージした温かみのある空間になっています。なめらかな曲線を描く受付の水平壁前の22W電球形蛍光灯ダウンライト(電球色)は、受付の前を明るく照らしながら誘導効果も得ており、ここでは、病院にありがちな白い光にならぬよう、光色を選定しています。抗がん剤点滴室は、ゆったりとしたスペースにテレビ付リクライニングベッドを設置。光源が患者さんの目に入らぬよう、ベッド背面の板壁に上下の開口を設け、板壁内側にHf32W1灯用トラフを設置した間接照明とし、あえて明るさを落としてリラックスした雰囲気を得るため、光束の低い美術館・博物館用Hf蛍光灯(電球色)を使用しています。

心を伸びやかにするヨガや気功、治療に役立つ講演会や演奏会なども開かれる3階の多目的ホール(ヒーリングスペース「癒しの森」)は「森」をイメージした空間で、大小の円形の折上天井に間接照明を施し、床には色違いのタイルカーペットをランダムに配置。森の中の木漏れ日でできた日だまりを表現し、2階の受付・待合室とは違う木漏れ日のイメージを創出しています。



受付・待合室の照明 木製ルーバーの間からダウンライトの電球色の光が木漏れ日のように降り注ぐ落ち着いた雰囲気の空間



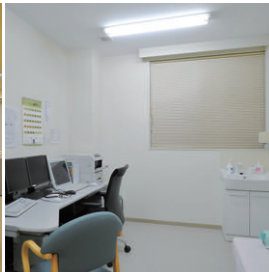
間接光を主体に眩しさを抑えた抗がん剤点滴室



多目的ホールの照明 森の中の木漏れ日と日だまりをイメージ



がん患者特別相談室の待合室の照明



診察室の照明 昼白色の光で患者さんの自然な顔を再現



CT室の照明 患者さんが上を向いても眩しくない位置にダウンライトを配置

## 主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
屋内	蛍光灯直付器具	FHT-42307N-PM9	20	32WHf蛍光灯×2
	蛍光灯トラフ	FHT-41007N-PA9	17	32WHf蛍光灯
	ダウンライト	BFD-10003	55	22W形電球形蛍光灯(ネオボールZ)
		BFD20819SEL	43	25W形電球形蛍光灯(ネオボールZ)
		ID-76010(W)	17	60W形ミセットレフランプ
		FHD-31017-PM9	13	32Wコンパクト形蛍光灯